

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0475401014		
法人名	医療法人 仙台医療福祉会		
	やすらぎホーム富沢	ユニット名	壺番館
所在地	仙台市太白区富沢西4-3-5		
自己評価作成日	令和 5年 2月 10日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai gokensaku.jp/">http://www.kai gokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 5年 2月 27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者様一人一人に個性があるのでそれぞれに対して対応やニーズも違ってきますので職員は入居者の方全員に同じ対応ではなく一人一人に合った対応が出来るように職員同士情報を共有しその人に合ったお手伝いをしています。職員が苦手な対応できるようにしています。フォローは他のスタッフ</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>富沢駅西土地地区画整理でホーム周辺は大きく変わった。道路や公園等が整備され大型スーパーやマンション等が立ち並び市街地となった。新町内会との交流はこれからである。ホームは3ユニットで、壺番館に向かい合って壺番館と参番館が並んでいる。2つの棟の間は駐車場夏祭り等の行事に地域住民が大勢集まる交流の場である。コロナ禍で外出に制限があり、入居者は室内で過ごす時間が多くなった。職員は花見風食事会や忘年会等行事を増やして、入居者が笑顔になるような催しを企画し実行している。法人の仙台富沢病院で、認知症デイケアを併設しており、緊急時の相談や必要時の往診があり、家族の安心に繋がっている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 やすらぎホーム富沢 )「ユニット名 杏番館 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念に基づきスタッフ一同が意識をもって実践出来るように目指している	ホーム理念の基に作成した「笑顔をもって関わらしましょう」の目標を継続している。管理者交代を機に、各ユニットの理念を作る予定でいる。マスクの中でも、目の表情や声で笑顔が伝わるように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	例年であればホームの行事など参加して頂くよう声を掛けていたり、地域行事に参加しているが、コロナウィルスの為に自粛している。	土地区画整理でホーム周辺は大きく変わった。住宅地整備により新町名になった。コロナ禍で外出に制限があり、町内会との交流は出来ていない。町内会長との面談等少しずつ動き出している状況である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	電話での問い合わせや見学(事務所での説明のみ)を行いきる限り認知症ケアの説明や取り組みを話すようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウィルスの事もあり進め方に戸惑いがあり会議ができておらず、現在調整を行っている。	開催出来ずにいた会議を2月20日に1回目を開催した。地域包括職員や町内会副会長、民生委員、中田事業所管理者が参加した。ホームの状況や入居者の様子、活動報告を行い、今後の取組み方等を話し合った。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	疑問点や分からない事はその都度市町村に確認を取るようにしている。	介護保険や生活保護関係の諸手続きで、担当職員に相談、助言を得ている。骨折等の事故は発生時に報告している。Zoomでの研修の知らせ等が来ている。研修等は今後は出来るだけ参加する予定でいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については管理者だけが知識を提供するだけでなく事例などを提供しなぜ行っちゃいけないのかケアを振り返りながら説明している。	身体拘束廃止委員会と虐待防止委員会を同じメンバーで、定期的に開催している。スピーチロックや食事摂取状況の事例を議題として話し合っている。言い換えの言葉や声かけの重要性等の勉強会をし、身体拘束のないケアに取り組んでいる。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	利用者様にたいしての声かけやケア全般に気をくばり虐待に該当する可能性があった場合事前に説明し注意を促すようにしている。	職員は、スピーチロックや行動の制止は虐待と理解している。入居者に話しかける時は依頼形を使うや、相手の話を最大限に聞く等に気を付けて支援している。不適切なケアを見たら、管理者に報告している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者および担当者が外部研修に参加し、その内容を説明したり資料を回覧している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時不安に思っている事や不明な点があれば納得、理解していただくまで説明している。また改訂については書面で説明を行っているが不明の事は随時答えられる様にしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置しているが投書はなかった。家族様に電話で話す機会あった時にケアの内容や具体的な事例も踏まえて説明など行っており併せて意見等を聞いている。	コロナ禍で面会等を自粛しているため、電話での対応が主となっている。「元気になってますか」「面会がしたい」が多い。家族の希望で、週2回法人のデイケアに通所している方がいる。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や全体会議で職員が意見を言える場を設けており反映できるようにしているが、コロナウィルスの為会議が減っており個別に意見や提案もできるようにコミュニケーションを図っている。	会議の他、朝と夕の申し送り時にも職員の意見や提案を話し合っている。入居者のケアの事やトイレ等の水回りの事が多い。出来る事は即解決している。管理者は互いに話しやすい環境作りに配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員の希望に合った労働時間など就業環境の改善に務められるよう、職員一人一人と話している。また、人事考課を行っており賞与など職員の評価につなげている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間学習のスケジュールを計画を立てておりスキルアップを図れるように努めている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同グループホームや小規模多機能の管理者との意見交換を行っている	法人運営の事業所管理者会議に参加し、情報交換等をしている。袋原に新ホームが開設予定で、ネットワーク作りを構築している。法人病院の相談室と連携を図り、ホーム職員不足の際は応援に来ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人や家族様から不安な事や困っている事を聞き取りしできるだけ安心して過ごせるように支援しコミュニケーションを図るよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が不安に思っている事困っている事に対しいつでも安心して相談して頂けるような関係性を築けるよう務めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを提供するにあたり、ご本人・ご家族様の要望を伺い必要に応じて対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様がとんな暮らしをしてきたのか把握し、家事活動など出来る事を行って頂けるよう努めている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナウイルスの影響で来所して頂く事ができずご家族様と直接話すができないため手紙や電話にて報告している		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルスの影響でご家族様との面会や馴染みの場所への外出などの機会を提供していたが現在は控えている。	コロナ感染予防の為、面会や外出、来訪等は自粛している。家族の話や入居時のアセスメントで聴取した一人ひとりの馴染みの人や場所等を、日常の会話の中に取り入れて支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わりあい支えあえるように支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された利用者様の家族からの相談にも乗れるように案内している・		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の会話や反応等から何を望まれているのかを聴き取りしたり、日頃の様子から本人様の気持ちを汲み取るよう努めている。	日々の会話から、一人ひとりの思いや要望を把握し、気づいた事をケース記録に残し申し送り時に話し合っている。意思疎通の難しい方は、顔の表情やソワソワする等の動作でイレ誘導等声がけをしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	できるだけそれまでの生活や暮らし方を継続して頂けるよう趣味や好みを把握しユニット内で情報共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活での会話や言動表情の変化等にも気づけるよう努めている。また、気になる利用者様がいた場合はユニット内で情報共有行っている		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	コロナウィルスの影響でご家族様との関わりは控えているが、月に1回のお手紙や、必要時電話連絡などで、生活状況や、受診状況などお伝えし、ご本人、ご家族の意見を反映したケアプランの作成に努めている。	個々の短期・長期目標に合わせ6か月毎にモニタリングをし、12か月で見直している。状況に変化があった場合はその都度見直している。音楽鑑賞や家事等好きな事を余暇活動として援助内容に盛り込んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録にケアプランを実施した結果を残し、今後のケアプランに反映出来るように、定期的に見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護、医療サービスではなく、ご本人が在宅生活で利用していた理容店やクリーニング店、スーパーなどを利用し、生活の幅を狭くしないよう可能な範囲で対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウィルスの影響で現在外出や外部との関わる機会は控えているが、落ち着いたら、買物や外食、地域の行事への参加を検討している。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのかかりつけ医とのつながりを大切に、ご本人やご家族の希望に沿うように支援している。	本人や家族の希望する医療機関を受診している。看護職員が対応している。必要時は家族の同伴もある。受診結果は「受診報告書」に記載し共有している。状態に変化があった場合は家族に連絡を入れている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活の中で普段と状態や様子の変化、疑問に思ったことがあった際は、速やかに看護師へ報告、相談を行い指示を仰ぐ。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中、ご家族や医療機関と連絡をとり、状況の把握、退院の調整、退院後のフォローに努めている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人やご家族へターミナルケアについての説明を行い、状況の変化に合わせて変更できることを伝えている。ご本人、ご家族が望む最期を迎えられるように配慮行っている。	「やすらぎホーム富沢における重度化及び看取りの指針」を明文化し、入居時に説明し同意を得ている。重度化した場合に、段階的に医師と関係者で話し合い方針の統一を図っている。「重度化及び見取り介護に関する職員教育」を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の初期対応や応急処置について指導して頂きながら、全員が対応できるように努めている。又、管理者やユニット長に連絡をとれるようにしている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に日中、夜間帯とそれぞれの設定で、地震、火災、水害を想定しての避難訓練を予定している。	毎年、定期的に地域住民参加で実施していた。4年度事業計画に3回の訓練が組まれているが、コロナ禍の影響を受け、実施できなかった。3月に夜間想定で行う予定でいる。法人の病院が避難場所となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	氏名の呼び方や声掛けの仕方などについて日々尊厳を守るように努めている。またトイレや入浴などの個室へのプライバシー保護への配慮にも努めている。	不適切な声かけにならないよう身体拘束・虐待防止委員会で話し合って共有している。トイレや入浴介助は羞恥心に配慮し、入室はノックをする等プライバシーを損ねない対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的な関わりの中でその方の思いや希望を表された時は最大限にできるよう取り組むように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望により食事の時間をずらす事や居室で過ごしたいなど一人ひとりのペース合わせた支援を大切にしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類など自分で選べる方には任せているが、選ぶことが困難な方には2種類など少ない服から選んで頂くなど工夫をしている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段からスーパーなどのチラシを見ながら好きな食べ物や食べたいものの聴き取りをし、合わせて季節の献立などに反映させている	朝食は業者より真空パックの状態配達される。昼と夕は入居者の好みやチラシ等を見て職員が献立を作り調理している。行事食や誕生日食がある。敬老会に入居者の希望で寿司の出前があり大喜びした。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日水分量や食事量のチェックしている。食事が進まない方に対して声かけや時間をずらすまた別の物を提供するなど工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の口腔内の状態を把握し、その方に合わせた介助やお声がけを行っている。また定期的に訪問歯科を利用して口腔ケアも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表確認し、それぞれの排泄パターンの把握した上で誘導を行っている。訴えがなくソワソワしていないかなど様子を見てお声がけしている。	排泄パターンを基に定時の声かけや、ソワソワする動作のトイレサインを見逃さず誘導している。オムツの方は居室で交換している。リハパンの汚れの頻度を把握調整し、布パンツになった方がいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品の提供や体を動かすなどして便秘の予防に努めている。また、自然排便が難しい方には医師と相談して下剤を使用するなど確認している。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	その方の希望や習慣に合わせて入浴を行っている。また介助が必要な方の入浴方法や工夫を行いながらできる限り継続していただけるように支援している。	夕食後の入浴や熱い湯、ぬるめの湯等、その方の生活習慣や好みに合わせた入浴をしている。湯は一人ひとり変えている。ゆず湯や菖蒲湯がある。週2～3回の入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	いつでも自由に休むことができる。疲労感が見られる際は休息を行っているが、休みばなしにならないように気を付けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情を確認しそれぞれの薬について理解するようにしている。内服時はダブルチェックを必ず行っている。臨時薬や変更がある場合は申し送りに記入して職員が把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人様やご家族様からお話を伺い好きな事や習慣など聴き取り、ホームでの生活においても継続頂けるよう支援している。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的な外出などの機会を持てるようにしているが現在はコロナウィルスの為自粛している。	ホーム周辺は区画整理で道路や公園の整備があり、散歩等ができなかった。天気の良い日は、玄関前のベンチに腰かけて日向ぼっこをしている。花見風食事会や忘年会等の室内で楽しめる行事を増やして楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談して、本人管理が可能な方であればお小遣い程度の額を管理して頂くようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様より希望がある場合は、電話の使用や取り次ぎなど行っている。耳が遠い方などに関しては、職員が代行したり、お手紙を書くなどの支援も行っている。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースには季節感がわかるように飾り付けをしたり、行事を行った際の写真を飾っている。玄関先には植物を置き、外気浴の時に楽しんで頂いている。	ホールは天井が高く、天窓から自然の光が入り明るい。定期的に窓を開け換気を行い、温湿度を管理して心地よい空間となっている。ホーム内はリフォーム工事中で、壁に飾っていた行事の写真や作品等は取り除かれている状況である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内に、テーブル席とは別にソファ席を置き、テレビを見たり、利用者様通しがおしゃべりをしたり、思い思いに過ごして頂ける様支援している。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅などで使っていた馴染みの物を置いたり、レクリエーションで作成した塗り絵やプリント、行事の写真などを飾り居心地の良い空間を提供している。	ベッドやタンス、エアコンが備え付けである。入口に職員手作りの表札が掛けてある。仏壇やソファ、テーブル等を使い易いよう置き、家族の写真や母の日の花、誕生日の色紙等を飾って安心できる部屋である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の力を見極め安全に配慮しながら環境整備、整理整頓を行っている。出来る事、行こなってきたであろうことを今後も続けてできるように支援している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0475401014		
法人名	医療法人 仙台医療福祉会		
事業所名	やすらぎホーム富沢	ユニット名	弐番館
所在地	仙台市太白区富沢西4-3-5		
自己評価作成日	令和 5 年 2 月 10 日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai gokensaku.jp/">http://www.kai gokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 5年 2月 27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様お一人お一人が自分らしく過ごして頂けるように生活支援の提供やホームの中で好きな事ができるように支援させていただいております。買い物に行きたい方にはまだ外出が出来ない事を伝え、代わりにスタッフが買い物するなどの対応にて行っております。気分転換も兼ねて季節の食事を召し上がり季節を感じて頂くなどの工夫をしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

富沢駅西土地地区画整理でホーム周辺は大きく変わった。道路や公園等が整備され大型スーパーやマンション等が立ち並び市街地となった。新町内会との交流はこれからである。ホームは3ユニットで、弐番館に向かい合って弐番館と参番館が並んでいる。2つの棟の間は駐車場。夏祭り等の行事に地域住民が大勢集まる交流の場である。コロナ禍で外出に制限があり、入居者は室内で過ごす時間が多くなった。職員は花見風食事会や忘年会等行事を増やして、入居者が笑顔になるような催しを企画し実行している。法人の仙台富沢病院で、認知症デイケアを併設しており、緊急時の相談や必要時の往診があり、家族の安心に繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 やすらぎホーム富沢 )「ユニット名 式番館 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念に基づきスタッフ一同が意識をもって実践出来るように目指している	ホーム理念の基に作成した「笑顔をもって関わらしましょう」の目標を継続している。管理者交代を機に、各ユニットの理念を作る予定でいる。マスクの中でも、目の表情や声で笑顔が伝わるように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	例年であればホームの行事など参加して頂くよう声を掛けていたり、地域行事に参加しているが、コロナウィルスの為に自粛している。	土地区画整理でホーム周辺は大きく変わった。住宅地整備により新町名になった。コロナ禍で外出に制限があり、町内会との交流は出来ていない。町内会長との面談等少しずつ動き出している状況である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	電話での問い合わせや見学(事務所での説明のみ)を行える限り認知症ケアの説明や取り組みを話すようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウィルスの事もあり進め方に戸惑いがあり会議ができておらず、現在調整を行っている。	開催出来ずにいた会議を2月20日に1回目を開催した。地域包括職員や町内会副会長、民生委員、中田事業所管理者が参加した。ホームの状況や入居者の様子、活動報告を行い、今後の取組み方等を話し合った。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	疑問点や分からない事はその都度市町村に確認を取るようにしている。	介護保険や生活保護関係の諸手続きで、担当職員に相談、助言を得ている。骨折等の事故は発生時に報告している。Zoomでの研修の知らせ等が来ている。研修等は今は出来るだけ参加する予定でいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については管理者だけが知識を提供するだけでなく事例などを提供しなぜ行っちゃいけないのかケアを振り返りながら説明している。	身体拘束廃止委員会と虐待防止委員会を同じメンバーで、定期的に開催している。スピーチロックや食事摂取状況の事例を議題として話し合っている。言い換えの言葉や声かけの重要性等の勉強会をし、身体拘束のないケアに取り組んでいる。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	利用者様にたいしての声かけやケア全般に気をくばり虐待に該当する可能性があった場合事前に説明し注意を促すようにしている。	職員は、スピーチロックや行動の制止は虐待と理解している。入居者に話しかける時は依頼形を使うや、相手の話を最大限に聞く等に気を付けて支援している。不適切なケアを見たら、管理者に報告している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者および担当者が外部研修に参加し、その内容を説明したり資料を回覧している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時不安に思っている事や不明な点があれば納得、理解していただくまで説明している。また改訂については書面で説明を行っているが不明の事は随時答えられる様にしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置しているが投書はなかった。家族様に電話で話す機会あった時にケアの内容や具体的な事例も踏まえて説明など行っており併せて意見等を聞いている。	コロナ禍で面会等を自粛しているため、電話での対応が主となっている。「元気にしていますか」「面会がしたい」が多い。家族の希望で、週2回法人のデイケアに通所している方がいる。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や全体会議で職員が意見を言える場を設けており反映できるようにしているが、コロナウィルスの為会議が減っており個別に意見や提案もできるようにコミュニケーションを図っている。	会議の他、朝と夕の申し送り時にも職員の意見や提案を話し合っている。入居者のケアの事やトイレ等の水回りの事が多い。出来る事は即解決している。管理者は互いに話しやすい環境作りに配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員の希望に合った労働時間など就業環境の改善に務められるよう、職員一人一人と話している。また、人事考課を行っており賞与など職員の評価につなげている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間学習のスケジュールを計画を立てておりスキルアップを図れるように努めている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同グループホームや小規模多機能の管理者との意見交換を行っている	法人運営の事業所管理者会議に参加し、情報交換等をしている。袋原に新ホームが開設予定で、ネットワーク作りを構築している。法人病院の相談室と連携を図り、ホーム職員不足の際は応援に来ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人や家族様から不安な事や困っている事を聞き取りしできるだけ安心して過ごせるように支援しコミュニケーションを図るよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が不安に思っている事困っている事に対しいつでも安心して相談して頂けるような関係性を築けるよう務めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを提供するにあたり、ご本人・ご家族様の要望を伺い必要に応じて対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様がとんな暮らしをしてきたのか把握し、家事活動など出来る事を行って頂けるよう努めている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナウイルスの影響で来所して頂く事ができずご家族様と直接話すができないため手紙や電話にて報告している		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルスの影響でご家族様との面会や馴染みの場所への外出などの機会を提供していたが現在は控えている。	コロナ感染予防の為、面会や外出、来訪等は自粛している。家族の話や入居時のアセスメントで聴取した一人ひとりの馴染みの人や場所等を、日常の会話の中に取り入れて支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わりあい支えあえるように支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された利用者様の家族からの相談にも乗れるように案内している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の会話や反応等から何を望まれているのかを聴き取りしたり、日頃の様子から本人様の気持ちを汲み取るよう努めている。	日々の会話から、一人ひとりの思いや要望を把握し、気づいた事をケース記録に残し申し送り時に話し合っている。意思疎通の難しい方は、顔の表情やソワソワする等の動作でイレ誘導等声がけをしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	できるだけそれまでの生活や暮らし方を継続して頂けるよう趣味や好みを把握しユニット内で情報共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活での会話や言動表情の変化等にも気づけるよう努めている。また、気になる利用者様がいた場合はユニット内で情報共有行っている		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	コロナウィルスの影響でご家族様との関わりは控えているが、月に1回のお手紙や、必要時電話連絡などで、生活状況や、受診状況などお伝えし、ご本人、ご家族の意見を反映したケアプランの作成に努めている。	個々の短期・長期目標に合わせ6ヵ月毎にモニタリングをし、12ヵ月で見直している。状況に変化があった場合はその都度見直している。音楽鑑賞や家事等好きな事を余暇活動として援助内容に盛り込んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録にケアプランを実施した結果を残し、今後のケアプランに反映出来るように、定期的に見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護、医療サービスではなく、ご本人が在宅生活で利用していた理容店やクリーニング店、スーパーなどを利用し、生活の幅を狭くしないよう可能な範囲で対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウィルスの影響で現在外出や外部との関わる機会は控えているが、落ち着いたら、買物や外食、地域の行事への参加を検討している。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのかかりつけ医とのつながりを大切に、ご本人やご家族の希望に沿うように支援している。	本人や家族の希望する医療機関を受診している。看護職員が対応している。必要時は家族の同伴もある。受診結果は「受診報告書」に記載し共有している。状態に変化があった場合は家族に連絡を入れている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活の中で普段と状態や様子の変化、疑問に思ったことがあった際は、速やかに看護師へ報告、相談を行い指示を仰ぐ。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中、ご家族や医療機関と連絡をとり、状況の把握、退院の調整、退院後のフォローに努めている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人やご家族へターミナルケアについての説明を行い、状況の変化に合わせて変更できることを伝えている。ご本人、ご家族が望む最期を迎えられるように配慮行っている。	「やすらぎホーム富沢における重度化及び看取りの指針」を明文化し、入居時に説明し同意を得ている。重度化した場合に、段階的に医師と関係者で話し合い方針の統一を図っている。「重度化及び見取り介護に関する職員教育」を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の初期対応や応急処置について指導して頂きながら、全員が対応できるように努めている。又、管理者やユニット長に連絡をとれるようにしている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に日中、夜間帯とそれぞれの設定で、地震、火災、水害を想定しての避難訓練を予定している。	毎年、定期的に地域住民参加で実施していた。4年度事業計画に3回の訓練が組まれていたが、コロナ禍の影響を受け、実施できなかった。3月に夜間想定で行う予定である。法人の病院が避難場所となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	氏名の呼び方や声掛けの仕方などについて日々尊厳を守るように努めている。またトイレや入浴などの個室へのプライバシー保護への配慮にも努めている。	不適切な声かけにならないよう身体拘束・虐待防止委員会で話し合って共有している。トイレや入浴介助は羞恥心に配慮し、入室はノックをする等プライバシーを損ねない対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的な関わりの中でその方の思いや希望を表された時は最大限にできるよう取り組むように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望により食事の時間をずらす事や居室で過ごしたいなど一人ひとりのペース合わせた支援を大切にしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類など自分で選べる方には任せているが、選ぶことが困難な方には2種類など少ない服から選んで頂くなど工夫をしている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段からスーパーなどのチラシを見ながら好きな食べ物や食べたいものの聴き取りをし、合わせて季節の献立などに反映させている	朝食は業者より真空パックの状態配達される。昼と夕は入居者の好みやチラシ等を見て職員が献立を作り調理している。行事食や誕生日食がある。敬老会に入居者の希望で寿司の出前があり大喜びした。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日水分量や食事量のチェックしている。食事が進まない方に対して声かけや時間をずらすまた別の物を提供するなど工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の口腔内の状態を把握し、その方に合わせた介助やお声がけを行っている。また定期的に訪問歯科を利用して口腔ケアも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表確認し、それぞれの排泄パターンの把握した上で誘導行っている。訴えがなくソワソワしていないかなど様子を見てお声がけしている。	排泄パターンを基に定時の声かけや、ソワソワする動作のトイレサインを見逃さず誘導している。オムツの方は居室で交換している。リハパンの汚れの頻度を把握調整し、布パンツになった方がいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品の提供や体を動かすなどして便秘の予防に努めている。また、自然排便が難しい方には医師と相談して下剤を使用するなど確認している。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	その方の希望や習慣に合わせて入浴を行っている。また介助が必要な方の入浴方法や工夫を行いながらできる限り継続していただけるように支援している。	夕食後の入浴や熱い湯、ぬるめの湯等、その方の生活習慣や好みに合わせた入浴をしている。湯は一人ひとり変えている。ゆず湯や菖蒲湯がある。週2～3回の入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	いつでも自由に休むことができる。疲労感が見られる際は休息を行っているが、休みばなしにならないように気を付けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情を確認しそれぞれの薬について理解するようにしている。内服時はダブルチェックを必ず行っている。臨時薬や変更がある場合は申し送りに記入して職員が把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人様やご家族様からお話を伺い好きな事や習慣など聴き取り、ホームでの生活においても継続頂けるよう支援している。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的な外出などの機会を持てるようにしているが現在はコロナウィルスの為自粛している。	ホーム周辺は区画整理で道路や公園の整備があり、散歩等ができなかった。天気の良い日は、玄関前のベンチに腰かけて日向ぼっこをしている。花見風食事会や忘年会等の室内で楽しめる行事を増やして楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談して、本人管理が可能な方であればお小遣い程度の額を管理して頂くようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様より希望がある場合は、電話の使用や取り次ぎなど行っている。耳が遠い方などに関しては、職員が代行したり、お手紙を書くなどの支援も行っている。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースには季節感がわかるように飾り付けをしたり、行事を行った際の写真を飾っている。玄関先には植物を置き、外気浴の時に楽しんで頂いている。	ホールは天井が高く、天窓から自然の光が入り明るい。定期的に窓を開け換気を行い、温湿度を管理して心地よい空間となっている。ホーム内はリフォーム工事中で、壁に飾っていた行事の写真や作品等は取り除かれている状況である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内に、テーブル席とは別にソファ席を置き、テレビを見たり、利用者様通しがおしゃべりをしたり、思い思いに過ごして頂ける様支援している。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅などで使っていた馴染みの物を置いたり、レクリエーションで作成した塗り絵やプリント、行事の写真などを飾り居心地の良い空間を提供している。	ベッドやダンス、エアコンが備え付けである。入口に職員手作りの表札が掛けてある。仏壇やソファ、テーブル等を使い易いよう置き、家族の写真や母の日の花、誕生日の色紙等を飾って安心できる部屋である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の力を見極め安全に配慮しながら環境整備、整理整頓を行っている。出来る事、行こなってきたであろうことを今後も続けてできるように支援している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0475401014		
法人名	医療法人 仙台医療福祉会		
事業所名	やすらぎホーム富沢	ユニット名	参番館
所在地	仙台市太白区富沢西4-3-5		
自己評価作成日	令和 5 年 2 月 10 日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai gokensaku.jp/">http://www.kai gokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 5年 2月 27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様がやりたいことを把握させていただき、少しでもかなえることが出来るように支援させていただいています。利用者様方は自ら色々な話をされたり、家事やレクへ参加され笑顔多く過ごされ、暖かい雰囲気だと思えます。利用者様がやりたいことを行いながら、大笑いしながら毎日過ごしております。利用者様に色々なことを教えて頂きながら、お互いを大切に、お互いを思いやり、お互いを敬いながら毎日を過ごしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

富沢駅西土地地区画整理でホーム周辺は大きく変わった。道路や公園等が整備され大型スーパーやマンション等が立ち並び市街地となった。新町内会との交流はこれからである。ホームは3ユニットで、参番館に向かい合って弐番館と参番館が並んでいる。2つの棟の間は駐車場や夏祭り等の行事に地域住民が大勢集まる交流の場である。コロナ禍で外出に制限があり、入居者は室内で過ごす時間が多くなった。職員は花見風食事会や忘年会等行事を増やして、入居者が笑顔になるような催しを企画し実行している。法人の仙台富沢病院で、認知症デイケアを併設しており、緊急時の相談や必要時の往診があり、家族の安心に繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 やすらぎホーム富沢 )「ユニット名 参番館 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念に基づきスタッフ一同が意識をもって実践出来るように目指している	ホーム理念の基に作成した「笑顔をもって関わらしましょう」の目標を継続している。管理者交代を機に、各ユニットの理念を作る予定でいる。マスクの中でも、目の表情や声で笑顔が伝わるように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	例年であればホームの行事など参加して頂くよう声を掛けていたり、地域行事に参加しているが、コロナウィルスの為に自粛している。	土地区画整理でホーム周辺は大きく変わった。住宅地整備により新町名になった。コロナ禍で外出に制限があり、町内会との交流は出来ていない。町内会長との面談等少しずつ動き出している状況である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	電話での問い合わせや見学(事務所での説明のみ)を行える限り認知症ケアの説明や取り組みを話すようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウィルスの事もあり進め方に戸惑いがあり会議ができておらず、現在調整を行っている。	開催出来ずにいた会議を2月20日に1回目を開催した。地域包括職員や町内会副会長、民生委員、中田事業所管理者が参加した。ホームの状況や入居者の様子、活動報告を行い、今後の取組み方等を話し合った。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	疑問点や分からない事はその都度市町村に確認を取るようにしている。	介護保険や生活保護関係の諸手続きで、担当職員に相談、助言を得ている。骨折等の事故は発生時に報告している。Zoomでの研修の知らせ等が来ている。研修等は今は出来るだけ参加する予定でいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については管理者だけが知識を提供するだけでなく事例などを提供しなぜ行っちゃいけないのかケアを振り返りながら説明している。	身体拘束廃止委員会と虐待防止委員会を同じメンバーで、定期的に開催している。スピーチロックや食事摂取状況の事例を議題として話し合っている。言い換えの言葉や声かけの重要性等の勉強会をし、身体拘束のないケアに取り組んでいる。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	利用者様にたいしての声かけやケア全般に気をくばり虐待に該当する可能性があった場合事前に説明し注意を促すようにしている。	職員は、スピーチロックや行動の制止は虐待と理解している。入居者に話しかける時は依頼形を使うや、相手の話を最大限に聞く等に気を付けて支援している。不適切なケアを見たら、管理者に報告している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者および担当者が外部研修に参加し、その内容を説明したり資料を回覧している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時不安に思っている事や不明な点があれば納得、理解していただくまで説明している。また改訂については書面で説明を行っているが不明の事は随時答えられる様にしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置しているが投書はなかった。家族様に電話で話す機会あった時にケアの内容や具体的な事例も踏まえて説明など行っており併せて意見等を聞いている。	コロナ禍で面会等を自粛しているため、電話での対応が主となっている。「元気にしていますか」「面会がしたい」が多い。家族の希望で、週2回法人のデイケアに通所している方がいる。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や全体会議で職員が意見を言える場を設けており反映できるようにしているが、コロナウィルスの為会議が減っており個別に意見や提案もできるようにコミュニケーションを図っている。	会議の他、朝と夕の申し送り時にも職員の意見や提案を話し合っている。入居者のケアの事やトイレ等の水回りの事が多い。出来る事は即解決している。管理者は互いに話しやすい環境作りに配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員の希望に合った労働時間など就業環境の改善に務められるよう、職員一人一人と話している。また、人事考課を行っており賞与など職員の評価につなげている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間学習のスケジュールを計画を立てておりスキルアップを図れるように努めている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同グループホームや小規模多機能の管理者との意見交換を行っている	法人運営の事業所管理者会議に参加し、情報交換等をしている。袋原に新ホームが開設予定で、ネットワーク作りを構築している。法人病院の相談室と連携を図り、ホーム職員不足の際は応援に来ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人や家族様から不安な事や困っている事を聞き取りしできるだけ安心して過ごせるように支援しコミュニケーションを図るよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が不安に思っている事困っている事に対しいつでも安心して相談して頂けるような関係性を築けるよう務めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを提供するにあたり、ご本人・ご家族様の要望を伺い必要に応じて対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様がとんな暮らしをしてきたのか把握し、家事活動など出来る事を行って頂けるよう努めている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナウイルスの影響で来所して頂く事ができずご家族様と直接話すができないため手紙や電話にて報告している		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルスの影響でご家族様との面会や馴染みの場所への外出などの機会を提供していたが現在は控えている。	コロナ感染予防の為、面会や外出、来訪等は自粛している。家族の話や入居時のアセスメントで聴取した一人ひとりの馴染みの人や場所等を、日常の会話の中に取り入れて支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わりあい支えあえるように支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された利用者様の家族からの相談にも乗れるように案内している・		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の会話や反応等から何を望まれているのかを聴き取りしたり、日頃の様子から本人様の気持ちを汲み取るよう努めている。	日々の会話から、一人ひとりの思いや要望を把握し、気づいた事をケース記録に残し申し送り時に話し合っている。意思疎通の難しい方は、顔の表情やソワソワする等の動作でイレ誘導等声がけをしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	できるだけそれまでの生活や暮らし方を継続して頂けるよう趣味や好みを把握しユニット内で情報共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活での会話や言動表情の変化等にも気づけるよう努めている。また、気になる利用者様がいた場合はユニット内で情報共有行っている		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	コロナウィルスの影響でご家族様との関わりは控えているが、月に1回のお手紙や、必要時電話連絡などで、生活状況や、受診状況などお伝えし、ご本人、ご家族の意見を反映したケアプランの作成に努めている。	個々の短期・長期目標に合わせ6ヵ月毎にモニタリングをし、12ヵ月で見直している。状況に変化があった場合はその都度見直している。音楽鑑賞や家事等好きな事を余暇活動として援助内容に盛り込んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録にケアプランを実施した結果を残し、今後のケアプランに反映出来るように、定期的に見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護、医療サービスではなく、ご本人が在宅生活で利用していた理容店やクリーニング店、スーパーなどを利用し、生活の幅を狭くしないよう可能な範囲で対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウィルスの影響で現在外出や外部との関わる機会は控えているが、落ち着いたら、買物や外食、地域の行事への参加を検討している。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのかかりつけ医とのつながりを大切に、ご本人やご家族の希望に沿うように支援している。	本人や家族の希望する医療機関を受診している。看護職員が対応している。必要時は家族の同伴もある。受診結果は「受診報告書」に記載し共有している。状態に変化があった場合は家族に連絡を入れている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活の中で普段と状態や様子の変化、疑問に思ったことがあった際は、速やかに看護師へ報告、相談を行い指示を仰ぐ。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中、ご家族や医療機関と連絡をとり、状況の把握、退院の調整、退院後のフォローに努めている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人やご家族へターミナルケアについての説明を行い、状況の変化に合わせて変更できることを伝えている。ご本人、ご家族が望む最期を迎えられるように配慮行っている。	「やすらぎホーム富沢における重度化及び看取りの指針」を明文化し、入居時に説明し同意を得ている。重度化した場合に、段階的に医師と関係者で話し合い方針の統一を図っている。「重度化及び見取り介護に関する職員教育」を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の初期対応や応急処置について指導して頂きながら、全員が対応できるように努めている。又、管理者やユニット長に連絡をとれるようにしている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に日中、夜間帯とそれぞれの設定で、地震、火災、水害を想定しての避難訓練を予定している。	毎年、定期的に地域住民参加で実施していた。4年度事業計画に3回の訓練が組まれていたが、コロナ禍の影響を受け、実施できなかった。3月に夜間想定で行う予定である。法人の病院が避難場所となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	氏名の呼び方や声掛けの仕方などについて日々尊厳を守るように努めている。またトイレや入浴などの個室へのプライバシー保護への配慮にも努めている。	不適切な声かけにならないよう身体拘束・虐待防止委員会で話し合って共有している。トイレや入浴介助は羞恥心に配慮し、入室はノックをする等プライバシーを損ねない対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的な関わりの中でその方の思いや希望を表された時は最大限にできるよう取り組むように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望により食事の時間をずらす事や居室で過ごしたいなど一人ひとりのペース合わせた支援を大切にしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類など自分で選べる方には任せているが、選ぶことが困難な方には2種類など少ない服から選んで頂くなど工夫をしている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段からスーパーなどのチラシを見ながら好きな食べ物や食べたいものの聴き取りをし、合わせて季節の献立などに反映させている	朝食は業者より真空パックの状態配達される。昼と夕は入居者の好みやチラシ等を見て職員が献立を作り調理している。行事食や誕生日食がある。敬老会に入居者の希望で寿司の出前があり大喜びした。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日水分量や食事量のチェックしている。食事が進まない方に対して声かけや時間をずらすまた別の物を提供するなど工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の口腔内の状態を把握し、その方に合わせた介助やお声がけを行っている。また定期的に訪問歯科を利用して口腔ケアも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表確認し、それぞれの排泄パターンの把握した上で誘導を行っている。訴えがなくソワソワしていないかなど様子を見てお声がけしている。	排泄パターンを基に定時の声がけや、ソワソワする動作のトイレサインを見逃さず誘導している。オムツの方は居室で交換している。リハパンの汚れの頻度を把握調整し、布パンツになった方がいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品の提供や体を動かすなどして便秘の予防に努めている。また、自然排便が難しい方には医師と相談して下剤を使用するなど確認している。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	その方の希望や習慣に合わせて入浴を行っている。また介助が必要な方の入浴方法や工夫を行いながらできる限り継続していただけるように支援している。	夕食後の入浴や熱い湯、ぬるめの湯等、その方の生活習慣や好みに合わせた入浴をしている。湯は一人ひとり変えている。ゆず湯や菖蒲湯がある。週2～3回の入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	いつでも自由に休むことができる。疲労感が見られる際は休息を行っているが、休みばなしにならないように気を付けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情を確認しそれぞれの薬について理解するようにしている。内服時はダブルチェックを必ず行っている。臨時薬や変更がある場合は申し送りに記入して職員が把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人様やご家族様からお話を伺い好きな事や習慣など聴き取り、ホームでの生活においても継続頂けるよう支援している。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的な外出などの機会を持てるようにしているが現在はコロナウィルスの為自粛している。	ホーム周辺は区画整理で道路や公園の整備があり、散歩等ができなかった。天気の良い日は、玄関前のベンチに腰かけて日向ぼっこをしている。花見風食事会や忘年会等の室内で楽しめる行事を増やして楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談して、本人管理が可能な方であればお小遣い程度の額を管理して頂くようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様より希望がある場合は、電話の使用や取り次ぎなど行っている。耳が遠い方などに関しては、職員が代行したり、お手紙を書くなどの支援も行っている。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースには季節感がわかるように飾り付けをしたり、行事を行った際の写真を飾っている。玄関先には植物を置き、外気浴の時に楽しんで頂いている。	ホールは天井が高く、天窓から自然の光が入り明るい。定期的に窓を開け換気を行い、温湿度を管理して心地よい空間となっている。ホーム内はリフォーム工事中で、壁に飾っていた行事の写真や作品等は取り除かれている状況である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内に、テーブル席とは別にソファ席を置き、テレビを見たり、利用者様通しがおしゃべりをしたり、思い思いに過ごして頂ける様支援している。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅などで使っていた馴染みの物を置いたり、レクリエーションで作成した塗り絵やプリント、行事の写真などを飾り居心地の良い空間を提供している。	ベッドやダンス、エアコンが備え付けである。入口に職員手作りの表札が掛けてある。仏壇やソファ、テーブル等を使い易いよう置き、家族の写真や母の日の花、誕生日の色紙等を飾って安心できる部屋である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の力を見極め安全に配慮しながら環境整備、整理整頓を行っている。出来る事、行こなってきたであろうことを今後も続けてできるように支援している。		